

高分子分析研究懇談会418回例会^{※1}

講演会+見学(体験会:アンビエントMS or IR、～測定から解析まで～)

<日時> 2024年2月15日(木曜日)10:40～ (受付10:10～)

<開催形式>リアル+Web(配信のみ)のハイブリッド開催^{※2}

<場所(講演会)>F-プレイス(藤沢公民館・労働会館等複合施設) 大ホール(3階)

〒251-0053 神奈川県藤沢市本町1-12-17 (JR藤沢駅より徒歩10~15分)

<https://www.fujisawa-fplace.com/access/>

<場所(測定の体験会)>株式会社バイオクロマト(本社3F)

〒251-0053 神奈川県藤沢市本町1-12-19 (F-プレイスのとなりです)

<https://www.bicr.co.jp/company/access>

<プログラム>

10:10～10:40 受付

10:40～10:50 【開会のあいさつ】

菅沼 こと 高分子分析研究懇談会 委員長(帝人株式会社)

10:50～11:20 【講演1】木田 拓充 先生(滋賀県立大学)

「ラマン分光法を用いた高分子の構造・物性評価」

ラマン分光法は化学構造の同定手法としてよく用いられるが、ラマンスペクトルの詳細な解析を行うことで分子鎖の凝集状態や応力負荷状態を評価することが可能である。本講演では、力学試験とラマン分光法を組み合わせたレオ・ラマン分光法を用いて高分子材料の力学応答を構造論的に議論した内容を紹介する。

11:20～11:50 【講演2】山口 秀幸 様(味の素株式会社)

「食品研究における成分分析と構造解析」

11:50～13:00 昼休み^{※2}

13:00～13:30 【講演3】森田 成昭 先生(大阪電気通信大学)

「赤外分光とデータ解析を組み合わせた高分子分析」

赤外スペクトルは分子の僅かな環境変化に反応して敏感に波形を変える。しかしその情報から分子構造や相互作用の変化を読み解くのは容易なことではない。そのためにはスペクトルデータの解析が必須となる。当日は Python を用いたデータ解析事例をいくつか紹介する。

13:30～13:50 休憩(名刺交換会)

13:50～14:50 【特別講演】平岡 賢三 先生(山梨大学 クリーンエネルギー研究センター)
「気体、液体、固体試料の最新大気圧質量分析イオン化法：原理とその応用」
質量分析は、1906年のThomsonによるイオンの質量／電荷比の測定装置開発に端を
発し、低圧気体の電子イオン化、化学イオン化、さらには質量分析計の排気能の向上に
よって、大気圧(アンビエント)イオン化が主流となっている。大気圧下での操作が可能
になったことで、数多くのイオン化法が開発されている。本講では、気体、液体、固体試
料を対象とする最新の大気圧イオン化法を概観し、これらの方法の原理に基づいてそ
れらの応用について皆様とともに考えていきたい。

14:50～17:30 会社見学+体験会 [実験(データ取得)+解析+Discussion]

～チーム制 (他チームの様子は大会場スクリーンでVR投影～
チームA:FTIR分析ATR法+データサイエンス1
(チームB:FTIR分析ATR法+データサイエンス2)←調整中
チームC:大気圧(アンビエント)イオン化MS+ポリマー末端構造解析
チームD:大気圧(アンビエント)イオン化MS+ポリマー添加剤解析
チームE:大気圧(アンビエント)イオン化MS+データサイエンス

17:30～17:40 【閉会のあいさつ】

菅沼 こと 高分子分析研究懇談会 委員長 (帝人株式会社)

17:40～19:40 【懇親会】※3

※1: 参加資格 高分子分析研究懇談会会員(法人・個人)に限ります。

※2: 講演会参加費：無料。昼食はお弁当になります(昼食代:1000円、当日現金払い)

※3: 懇親会参加費：2000円、当日現金支払い、会場はF-プレイス内

(必) 事前登録をお願いいたします(詳細は以下に記載)。

申込締切：2024年2月7日(水)

現地参加者は人数制限に達し次第締め切ります。(人数制限:講演会50名、懇親会50名)

講演会・懇親会の申込先:

高分子分析研究懇談会HP(<https://pacd.jp/>)より参加登録して下さい

マイページにログイン⇒下段の「例会・討論会・講習会参加申し込み」⇒「第418回 例会」より、お申し込みください

用意でき次第
受付を開始します

会場案内



(問い合わせ先)

株式会社 バイオクロマト 島田 治男 E-mail: h.shimada@bicr.co.jp (Tel: 080-5225-8491)